



藤田小学校だより

<<号外・修学旅行>>

令和4年9月26日

守口市立藤田小学校

校長 熊崎 夕美子

平和への祈りをこめて～6年生修学旅行の取り組み～

9月21日(水)、22日(木)の2日間、6年生は広島へ修学旅行に行きました。「戦争の恐ろしさ、平和の尊さを学び、生命の大切さや平和を守る心情を育てる」ことが、修学旅行の大きな目的の一つに挙げられます。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が継続している今、



「平和」について考えることは、これからの社会を生きる子どもたちにとって必要不可欠な

「学び」となります。夏休み明けから修学旅行出発まで、約3週間という短い期間の中、

6年生は一生懸命平和学習を進めました。9月2日(金)の朝学の時間には、グループに分かれて各学年の教室に行き、スライド資料を使って、

「佐々木 禎子さん」のお話をしました。禎さんは、2歳で原爆により被爆し、10年後の小学6年生のときに白血病と診断され、広島市の病院に入院しました。千羽鶴がお見舞いに贈られたことをきっかけに「生きたい」という願いを込めて、薬包紙やお見舞いの品の包装紙等で1,300羽以上の鶴を折りました。しかし、8か月の闘病生活の末、家族が見守る中、禎さんは息を引き取りました。それから折り鶴は平和のシンボルとして、多くの国で平和を願って折られるようになり、広島平和記念公園の「原爆の子の像」には日本国内をはじめ、世界中から今もたくさんの折り鶴が捧げられています。藤田小学校でも毎年、全校児童が協力して折った千羽鶴を、6年生が修学旅行に実際に持参し、「原爆の子の像」に捧げてくることにしています。



出発1週間前の9月15日(木)には、

「折り鶴集会」が体育館で開かれました。密を避けるため、5年生は3階ギャラリーに、1～4年生は間隔を空けてフロアに座り、6年生の発表を全校児童で聞きました。「平和宣言」と題した呼びかけと、「ヒロシマの有る国で」という歌の合唱を堂々と披露してくれた6年生。1～5年生は、みんな真剣なまなざしで聞き入っていました。



21日当日は天候にも恵まれ、バス・新幹線を乗り継ぎ、いよいよ広島へ到着。最初に平和記念公園に向かいました。原爆ドームを見学した後、「原爆の子の像」の前で「平和セレモニー」を行ないました。黙とうを捧げ、「平和宣言」を行ない、全校児童が折ってくれた千羽鶴を無事届けることができました。昼食を食べてボランティアガイドさんと一緒に公園内のワールドワークを終え、2019年4月にリニュー

アルオープンした「平和記念資料館」へ。被爆者が身につけていた服や、爆風で曲がった鉄骨など、実物の展示を重視しているそうです。かつての資料館本館には、やけどをして皮膚をぶら下げて歩く被爆再現人形が展示されていました。でも、被爆者からは「被害はこんなものじゃなかった」という批判もあり、展示をやめたそうです。「遺品と向き合って、被爆者や遺族の苦しみを自分に置きかえて想像してもらいたい」という考えから、展示品の説明は、あまりくわしくしていない、とのことでした。

子どもたちは一つひとつの展示に見入り、それぞれが考えを深めていました。

平和記念公園を出て、夕刻には宿泊場所の「県民の浜」に到着しました。入浴や買い物、食事を友だちと共に楽しみ、交流を深めていました。翌日はテニスや浜遊び、サッカー、ドッジボー



ルをそれぞれ楽しんだ後、魚釣り体験へ。カッターでは、指導員さんに教えてもらいながら、「オーエス！」と声を合わせて一生懸命オールを漕いでいました。魚釣り体験では、簡単な仕掛けで、手で釣り糸を垂らして釣るものでしたが、意外とたくさん釣れて驚きました。中には一人で何匹も釣り上げる釣り名人も…昼食では炊き立ての美味しい鯛めしと、自分たちが釣った魚の唐揚げに思う存分舌鼓を打った後、宿舎を出発し、帰路に着きました。

一人ひとりが大事な思い出を作った修学旅行。この旅で学んだ「平和の尊さ」や、「集団としての心構え」を忘れず、卒業までの半年を大切に過ごしてほしいと思います。